浜松西高中等部　サッカー部へ行ってきました！

校訓は
「　たくましい力　」
「　高い知性　」
「　豊かな心　」

浜松西高等学校に併設された中等部は、
設立７年目です。

これから新しい歴史を刻んでいくという想いが満ちているようで、
とても新鮮な雰囲気を醸し出していました。

OBには、オリンピック選手も多くいます。

校門をくぐりきったところに
こんなモニュメントが・・。

目が離せなかったのは、この像です。
お茶目なポーズに、きっと深い意味があるのだろうなと
考えてしまいました。（笑）

取材の日は、
高校生の体育大会応援合戦の練習も佳境に入る頃で、
グラウンド横の練習スペースで先輩方は、
色鮮やかな衣装を着て踊りの練習に励んでいました。

本日のサッカー部の練習は、
午後3時 30 分～6時までの2時間半です。

身のこなしやステップワークといった
瞬発力を養うためのトレーニングを充分こなし、
ボールを使った練習に入ります。

ゴールキーパーの練習も
じっくり見せてもらいました。

向かってくるボールをにらみつけ、
止めてやると心に誓って・・・

セービングできるときばかりではありません。
あと数センチというところで、ボールが手の先を通り抜けていきます。

服はいつの間にか土まみれ。
でも、練習は続きます。

＜魔の「PK戦」＞

キーパーにとって、
精神的なプレッシャーがある場面といえば、
やはりコレでしょう。

ゴールキーパーの本間君（２年生）（筆者と同じ苗字！）に聞きました。

本間　　「PK 戦って、やっぱり嫌なもの？」
本間君「そりゃあ、嫌です。」
本間　　「どんなところが？」
本間君「止められなかった時の、みんなのがっかりする表情とか、ため息とか・・」
本間　　「やっぱりそうなんだ。」
本間君「あー。あそこで止めていれば、とか、右に飛んでいれば、とか、
試合が終わっても立ち直れないことが多いです。
やはり、ミスで負けるのが一番悔しいです。」

本間　　「落ち込むのと、次の試合へ切り替えていく境目って何かあるの？」
本間君「先輩の言葉です。
次の大会は絶対頑張ろうぜ。って言葉をかけてくれて。」
本間君「負けた試合の日は、家まではなんとか涙はこらえても、
部屋に入るとどうしようもない時もあります。」

試合は勝ち進んでいくほど引き分けることが多く、
PK 戦になる確率が高いそうです。

本間君は、PK 戦が始まりホイッスルが鳴る直前に、
とっておきの方法で気持ちを静めていると、
こっそり教えてくれましたが・・・
その方法はここでは秘密にしておきましょう。（笑）

ゴールをみんなで運び、
ゲーム形式の練習が始まります。

＜顧問の藤井先生＞

体育科の先生ということで、今まで、
色々な部活の顧問を経験されたそうなのですが、
変わらない１つの信念があるそうです。

それは、どの部活動であっても、
そこはその生徒が成長するための教育の場である
ということです。

勝つことは、生徒にとっては目標なので
こだわりはするものの、勝ちさえすれば何でもいいのか、
ということを常に生徒自身に問うのだそうです。

「サッカーをやる自分」
「勉強をする自分」
「生活をする自分」

好きなサッカーでここまで頑張れるのならば、
勉強や生活でも同じくらい頑張って欲しい。
それを期待したい。

部活での先生の教え方は、スパルタではありません。
「で、どうよ」と問いかけ、生徒がどうしたいのか自ら考えさせます。

それが今の段階で必要かどうかを判断しながら、
それを守らせる厳しさをもって部活を指導されているようです。

「藤井先生は、僕らの言い分も聞いてくれるからイイです。
**　でも、勉強をサボると、怒ります。」**

ある生徒さんが教えてくれました。

日も暮れ、もうじき6時です。
高校生の硬式野球部のノック練習が始まり、
グラウンドでの主役が変わります。

2 時間半、走りきって練習が終わりました。

（取材　本間）